

会議の名称	第3回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和3年12月21日(火) 19時00分～20時30分		
開催場所	市役所 8階 大ホール		
出席者	※出席委員等：両角会長、守屋副会長、小平委員、宮坂委員、高木委員、半田委員、鈴木委員、藤野委員、唐澤委員、鶴石委員、大川委員、両角(博)委員、丸茂委員、柿澤委員 ※市側出席者：柿澤副市長、伊藤総務部長、小平企画部長、岩島市民環境部長、土橋総務課長、平澤財政課長、有賀P推進課長、野明人材育成担当、小田島財政係長、武居コミュニティ推進係長、田中企画課長、伊藤企画係長、矢島行革・デジタル係長、藤澤主査、功力主査		
欠席者	伊原委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局 柿澤副市長 会長 委員	○議事		
	1 開会		
	2 委嘱書交付		
	3 挨拶		
	4 会議内容		
	(1) 審議会の進め方について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>		
	*了承		
	(2) 茅野市の行財政の現状と課題について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span>		
	*課題の分類分けについて再度事務局で整理		
	(3) 委員からの提案確認事項について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>		
*回答			
5 その他			
*次回審議会は1/18(火)18:00～予定 オンライン併用とする			
6 閉会			
○議事録			
1 開会			
2 委嘱書交付			
3 会長あいさつ			
多くの委員から意見をいただきまとめていきたい。今年度は大きな方針をまとめてたい。			
4 会議内容			
(1) 審議会の進め方について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>			
・・・資料1に基づき説明・・・			
進め方としては良いが、論点整理についてはしっかりしてほしい。挙げられた課題にはそれぞれの対象や、本来の目的がある。ひとくくりにして			

委員	<p>しまうことで、その論点がずれてしまう。</p> <p>今回の課題出しが「担い手不足と財政硬直化によって生じる課題」となっていたが、これまでの審議会でその2点を対象とする結論付けがあったか不明。このテーマ以外にも課題はあるのではないか。</p>
事務局	<p>主だったテーマとして挙げているが、他の切り口の課題も存在する。また整理していきたい。</p>
会長	<p>担い手不足と財政だけが課題の範囲とは考えていない。委員から提起頂く内容を分類分けして方向性を出したい。今回の事務局からの案内では、説明不足があった。</p> <p>議題の順番を入れ替えて(3)を事務局から説明する。</p>
事務局	<p>(3) 委員からの提案確認事項について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span></p> <p>・・・資料3に基づき説明・・・</p>
会長	<p>続いて本日の本題である(2)について事務局から説明する。</p> <p>(2) 茅野市の行財政の現状と課題について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>・・・資料2に基づき説明・・・</p>
会長	<p>課題提起いただいた委員より補足願いたい。また他の委員も意見出しを願いたい。</p>
委員	<p>柱を区切ってあるが、単発の課題では見えづらい部分もある。個々の問題が複合的に絡んで課題が出ているのでは。その全体像を把握することが難しいと感じている。</p>
委員	<p>ワーケーションに関する意見は非常に共感できる。自分が関わっている団体が、親子ワーケーションのトライアルを都内企業等と共同で実施している。その中で観光地と都市部の企業とで温度差があると感じている。また、コロナ禍で若者の移住需要が増えているが、雇用とのマッチングが重要であると感じている。</p>
委員	<p>茅野市は40年程前と比較すると、総人口が増え、生産年齢人口も増加しているので、今までの役員のなり手不足は人口減少が要因ではない。しかし、現在のなり手の不在の問題は、今後総人口が減少していく中では、輪をかけて厳しくなる事を念頭に置く必要がある。</p>
委員	<p>提起された課題の分類が難しいと感じている。自分が提起した合区も、その問題となる現象は、少数でなり手がいないことである。現象と課題、対策が混じっている例も見受けられる。事務局である程度大きな枠組みで精査してほしい。</p>
委員	<p>役員のなり手不足の提起があるが、その役が本当に必要かという視点が欠けている。また移住者を増やすという意見がある中、地域の役や入区費が障壁となることも考えられ、そこから検討することが必要と感じた。</p>
委員	<p>この審議会で最初に上がったのは、人口減少と財政硬直化と認識している。人口減少の課題はコミュニティの維持だと思う。それが具体的にみると担い手不足や、地区の役になる。パートナーシップのまちづくりの中で、そのパートナーシップをどう展開していくかにも繋がる。</p> <p>財政硬直化の対策は、収入増と支出抑制である。茅野市の税収は主に製造業であり、移住の入り口である観光業も含めて重点的な対策をとり、茅野市の強みとすることも重要。支出抑制は、公共施設維持、市職員体制を</p>

委員	<p>どうしていくかが重要。課題を大枠で整理し、議論していくのが良い。</p> <p>提起された課題は多数あるが、大枠で整理すれば絞られるのでは。人口減少と財政硬直化が一番問題だと感じており、行政の考え方として、市民を取り残さないという視点はあるが、やらなくていい事をまず決め、やるべき事を絞っていくように、議論を進めていけば良いのでは。</p>
委員	<p>一例として北大塩の中学生が永明中学校まで歩いて通っている状況がある。バスも減便しており、また新たな対応もされているが、カバーしきれていない。市には中期的な計画もあり、また本審議会は2年任期の中で検討する場であるが、悠長に構えていると、その子どもたちが卒業してしまう。時間かける部分も必要だが、教育や高齢者等、今直面している問題に優先順位を付け、ピーディに結果を出す事も期待したい。</p>
委員	<p>基金が枯渇するという話題があったが、そういった危機感や、何が起こるのかを市民の方に理解いただくことが必要。行政サービスへの要望もあると思うが、何が起きるのでどこを我慢すべきかしっかりと説明していく必要がある。なり手不足は、現状を効率化して解消する方法もあるが、1年任期の役では前例を変えることが困難。市や本審議会で、解決策の提言ができると進むのでは。雇用や人材確保についてみると、給与の面で都会に勝てない。しかし、住まいや環境、物価といった情報を的確に伝えることで、人材の確保や移住の促進を進めることができるのでは。</p>
委員	<p>提起された様々な課題をどう収斂させるかが、非常に難しく感じる。これから議論していく中で、一つ軸がないとまとまらない。全社会型、受益者全員平等が理想だが難しい。そこを打破するには、迷ったときに判断基準となる軸を共有して、例えば、「若者に選ばれるための施策はどうあるべきか」のような軸が明確化されれば、目標に向かって進むのでは。</p>
委員	<p>人口減少や少子高齢化、財政が厳しい状況は、茅野市固有の課題ではなく、全国で若者の取り合いを始めようとしている。若者に選ばれるには、今住んでいる人が、健康で幸せに生活できることも大事である。若者がそれを魅力に感じて、結果増えていく可能性がある。茅野市の魅力として都心に近い方であるとか、観光地がある、大学がある、地域医療頑に力を入れている点は大きい。雇用や子育て、健康を含めて茅野市の優れている部分をどう盛り込むかが重要。併せてDXは大事であり、雇用も重労働低賃金よりか近未来的な企業が増え、余暇を十分に楽しめる仕事生活や子どもとの関わり、健康維持、自然を楽しむ時間が取れる等の強みにつながる。DXに対するアレルギーもあるため、丁寧に説明する事が必要。また、理念的であるが、高齢者の増加が悪いのではなく、誰もが価値ある存在であるまちの方が良い。ジェンダーフリーも、積極的に取り組むまちであることも必要である。</p>
委員	<p>市の職員や組織がどう変わるかが大きい要素であると感じている。業務改革的なテーマが少ない。</p>
委員	<p>個別事項で、区の合併の話題があったが、小規模の区でも助け合って運営できている事例や、財産区の運営など一律に進められない要素もある。</p>
会長	<p>委員から貴重な意見をいただいた。資料2は一旦、事務局で分類化しているが、分類についての意見はあるか。</p>
委員	<p>先ほども意見があったが、区・自治会の合併再編の部分は、狭く捉えずに、実施組織や機能の見直し・改革のように大きくまとめてはどうか。消防団などの個別の役割・機能も市からの指示で実施している部分に精査がいるのでは。また、課題と問題が混在しており、整理が必要。</p>

委員	資料中に課題、現象、解決策が混在している。上流の課題と派生する現象、解決策を紐づけして整理が必要。例えば共助の向上に向けた住民自治のあり方が本当の上流の課題になる可能性もある。事務局で再度整理を。
委員	対象事象をどの視点でとらえるかで、大きく議論が変わる。行財政の中には、住民サービスの充実に軸を置くのか、市の行財政の健全性の問題に軸を置くのかで検討の内容や答申の方向性が変わってくる。
柿澤副市長	財政面が厳しい中で住民サービスの充実を考える時に、行政側からのサービスだけでなく、住民と行政の協働の中で充実するという事も考えられる。行政内部の課題もあるが、協働で地域をよくするという視点も検討いただきたい。
委員	茅野市では長く、パートナーシップのまちづくりの手法で共助に力を入れている。そこが本当に日本に誇れるパートナーシップが発揮されてるか、共助でうまくまちが回っているか考えると道半ばだと思う。区も様々な役があるが、保健補導員や福祉委員等役割が不明確な部分もある。不明確になる理由は、各区へ丸投げしているからである。市として何をどうしたいのか、ビジョンを提示する必要がある。一年任期の区長に期待することは難しいと感じており、こういった状況を含めて、共助の中身を充実していけば、成果も出やすいし職員の削減につながるのでは。
委員	本審議会の対象である行財政は、総合計画の体系図上、各分野を横串で刺し、各分野の施策の実現に向けて支えていくための財政的基盤と捉えることができる。財政はどうあるべきか、どのようにして確かなものにしていくのかという議論が、中心になるのでは。
会長	財政がないところに政策がないと思っている。総合計画では様々な施策があるが、根本的な財政を考えずに策定されている様に感じている。本当に必要なサービスややらなければいけないことに財源を使ってほしいと感じている。答申の中にそういった項目が入っていけばよい。
委員	市債残高の推移をみると全会計の市債は、特定要因で増えている時期もあるが、基本的に減少できている。この返済規模は今後も期待できるものなのか。また、ピーク時に540億円の起債残高があったが、再度このレベルになった時に財政上どんな課題が生じるか。
事務局	行政サービスや歳出構造が変わっている状況。高度経済成長期は建物やインフラ整備が主に市の支出であったが、20年程前からソフト事業が多く占めている。起債対象のハード事業は一定規模に減少している。そのため、今一番財政を圧迫しているのはソフト事業である。年々、社会保障費が増えているうえ過去に整備した施設の維持修繕や更新も控えている。起債の残高はほとんど減らないか増えてく。現在の返済額は限界に達している中で、ソフト事業が膨らみ、結果財政の硬直化につながっている。
柿澤副市長	また、市債残高の約半分程は国が交付すべき額を、地方の借金として負担している部分もある。国の借金が既に1千兆円と膨れ上がり、一部を地方が負担するという非常に危うい構造の中で財政運営をしている状況。
会長	本日の課題の分類については、論点を再度精査し示したい。それをもとに、次回はあるべき姿や答申の方向性を大枠で検討したい。
委員	行財政が目指す方向を整理するためには、財政指標の許容限界が提示されないと、着地点が見えてこない。次回以降提示願いたい。
会長	事務局で検討し提示願いたい。答申は、大胆な内容を出したいと考えており、厳しいけれども優しい答申にしたいと考えている。住民サービスの向上と市の事務経営は分けて考える必要がある。その他お気づきの点は事

委員	<p>事務局へ提起頂きたい。</p> <p>今年度のスケジュールから見ると、スピード感が求められ、課題整理等早期に委員送付を願いたい。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>これまでの審議会は19時開始、対面会議で実施してきたが、開始時間の前倒しやオンライン開催の希望もいただいている。検討いただきたい。</p>
委員	<p>会議は対面で行うことに意義があると感じる。時間は、各委員で都合があることであり、場合によってオンライン等の選択をすれば良いのでは。</p> <p><b>* 次回審議会は 1/18 (火) 18:00~予定 オンライン併用とする</b></p>
副会長	<p>6 閉会</p> <p>慎重審議をいただき、大変お疲れ様でした。ご意見に対して会長と事務局で早期にまとめながら、委員へ案内したい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>